

複合的な危機下 における TICADとJICA

独立行政法人国際協力機構(JICA) 理事長

田中 明彦

TANAKA Akihiko



本年4月1日付で、前理事長北岡伸一の後任として、独立行政法人国際協力機構理事長に就任いたしました。2012年4月から2015年9月までの3年半に続き、今回2度目の就任となります。

■前回の任期からの変化

今回就任して強く感じることは、アフリカを取り巻く環境が前回の任期の時から大きく変わっている点です。前任期は、アフリカが資源価格の高騰を背景に目覚ましい成長を遂げている時期でした。就任直後のタンザニア訪問(2012年5月)を皮切りに、3年半でアフリカ18カ国に出張しましたが、各国で「元気なアフリカ」を体感しました。2013年に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議(TICADV)では、「躍動のアフリカと手を携えて」を基本メッセージに、民間セクター主導の成長やアフリカへの投資の重要性が確認されました。ダイナミックに成長するアフリカに対して官民で連携して協力していく機運が高まった時期でもありました。

前任期末から6年半たった今、世界は、新型コロナウイルスの蔓延、ロシアのウクライナ侵攻、深刻化する気候変動の影響など、世界史上に稀に見る複合的な危機の中にあります。例えば、2020年の経済成長率は多くの国で大幅なマイナスに落ち込み、ようやく回復の兆しが見えたところに、ウクライナ情勢に伴う物価上昇や食料不安が発生しました。近年では気候変動に起因するとみられる洪水や干ばつも増加しています。また、新型コロナ蔓延以前までは減少傾向にあった極度の貧困層が増加に反転するなど、持続可能な開発目標(SDGs)のいくつかのターゲットで後退が見られます。そして、世界で進行する複合的な危機は、特に脆弱性を抱えるアフリカに対して深刻な影響を与えています。

■今回就任して感じたJICAの協力の意義、アフリカのポテンシャル

一方で、4月の就任以降、日本の開発協力の意義や成果、そしてアフリカのポテンシャルについて再確認する機会も多くなりました。

まず、再就任して最初に出張した南スーダンでは、日本の開発協力がアフリカの平和の実現に大きく貢献していることを実感しました。今回の出張では、無償資金協力「ナイル架橋建設計画」の完工式に出席しました。南スーダンを南北に貫くナイル川の両岸に新たな橋を架ける南スーダン国民悲願のこの事業は、2度の争乱とコロナ禍による合せて3回の中断を乗り越え、ようやくこの春、10年越しの工事の完成を見たものです。南スーダンの平和と自由への願いを込めて「フリーダム・ブリッジ」と名付けられました。完工式には、多くの要人とともに、和解と反目を繰り返しているキール大統領、マシャール第一副大統領等が参加し、ともに「フリーダム・ブリッジ」の完成を祝福しました。正に、南スーダンと日本の協力と平和への願いの象徴と言える案件でしょう。

また、TICADの歴史と共に、JICAの長年に亘る協力はすそ野を広げ、成果を出しています。例えば、TICADIV(2008)で表明されたコメ増産イニシアティブ(CARD)は、2008年からの10年間でコメ生産倍増を達成し、TICAD7(2019)では、2030年までのさらなる倍増を目指すCARDフェーズ2を開始しました。また、TICADV(2013)を契機に開始された市場志向型農業振興アプローチ(SHEP)は、ケニアでの成功を踏まえて大きく発展し、現在はアフリカ27カ国を含む世界57カ国に広がっています。こうした取り組みは、アフリカが現在直面する食料危機の根本原因に対応し、アフリカの強靭性を高める重要な取り組みです。

さらに、アフリカの若者によるイノベーションを通じた社会課題解決の動きが大きく進展して

います。アフリカでは、社会課題解決を目指すスタートアップ企業が年々増えており、JICAをはじめとする開発協力機関や民間企業がアフリカのスタートアップとの連携を進めています。例えば、JICAはProject NINJA(Next Innovation with Japan)と題したアフリカ発スタートアップを対象としたビジネスコンペを2020年1月に開催し、優秀な起業家と日本企業の橋渡しを行っています。

■TICAD8に係る所感

先月チュニスで開催されたTICAD8は、歴史的な危機の中での開催となり、これまでのTICAD以上に日本にとって大きな意味を持つものでした。

国際社会の関心がウクライナ支援に集中するなか、国際社会が連帯して、アフリカの複合的な危機からの復興を支援し、長期的発展に向かう道筋をともに探っていく機会となりました。また、アフリカに対する国際的な連帯を日本が主導的に示すことで、日本がアフリカの真のパートナーであることを示す好機にもなったと感じています。

私自身もチュニスに出張し、アフリカ・日本の企業が一堂に会するビジネスフォーラムに参加するとともに、チュニジア、セネガル、コートジボワール、タンザニア、南アフリカ、ナイジェリア等の首脳級要人と会談しました。アフリカ各地域の主要国・地域機関のリーダーと、各国を取り巻く環境の変化や危機への対応について深く議論ができました。今回の議論を今後の事業展開に生かしていきたいと考えています。

来年は広島でG7が開催され、そして3年後の2025年には日本で次のTICADが開催予定です。日本とアフリカが共に発展し、信頼に基づく両者の関係がより強固なものとなるよう、JICAは今回のTICAD8で表明された取組を着実に実施していきます。